

- (4)「大学院におけるクリティカル領域の特定行為教育」  
大島久二(東京医療保健大学副学長・看護学研究科長)
- (5)「特定行為研修へのかかわりと今後に期待すること」  
岡 敬二(社会医療法人敬和会大分岡病院理事長)
5. 医療安全を感染対策の視点から考える  
座長：賀来満夫(東北医科薬科大学医学部感染症学教室特任教授/東北大学名誉教授)  
磯部 宏(KKR札幌医療センター院長)
- (1)「医療安全施策の動向」  
諸富伸夫(厚生労働省医政局総務課医療安全推進室室長)
- (2)「医療現場における新型コロナウイルス感染症対策」  
坂本史衣(聖路加国際病院QIセンター感染管理室マネジャー)
- (3)「新型コロナウイルス感染症対応から地域の公衆衛生を考える」  
永井仁美(大阪府富田林保健所所長)
- (4)「開業医からみた新型コロナウイルス感染対策」  
中西重清(中西内科学院長)
- (5)「現場対応の目的から見た検査のあり方」  
関谷紀貴(がん・感染症センター東京都立駒込病院感染制御科医長)
6. 臨床スタッフの負担を軽減する  
ーポリファーマシー 多職種による対策・連携ー  
座長：折井孝男(NTT東日本関東病院 Senior pharmacist)  
落合慈之(東京医療保健大学学事顧問室)
- (1)基調講演「市販後安全対策における医薬品適正使用の推進ーポリファーマシー対策と育薬、そして医療安全の確保ー」  
中井清人(厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課長)
- (2)「入院中の減薬をかかりつけ薬剤師に引き継ぐ」  
高柳和伸(公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院薬剤部長)
- (3)「多職種による患者情報の共有化と処方適正化」  
村岡修子(NTT東日本関東病院看護部看護長)
- (4)「生活を取りもどす薬の管理ー多職種連携のカー」  
稲川利光(原宿リハビリテーション病院筆頭副院長)
7. 医師事務作業補助者ー専門職としてさらなる高みを目指してー  
座長：西澤延宏(JA長野厚生連佐久総合病院副統括院長)  
長島 久(富山大学附属病院医療の質・安全推進部部長・特命教授)
- (1)「公立病院における医師事務作業補助者の組織運営体制強化の取り組み」  
三木典子(地方独立行政法人加古川中央市民病院医療業務部メディカルアシスタント)
- (2)「病院経営で必要とされる新たな分野の人材としての医師事務作業補助者」  
木村憲洋(高崎健康福祉大学健康福祉学部医療情報学科准教授)
- (3)「医師事務作業補助者の診療情報管理業務への関わり」  
中村雅彦(松本市立病院院長)
- (4)「医師事務作業補助者が医療安全向上へ及ぼす効果」  
福田誠司(島根大学医学部医療安全管理部教授)
8. タスクシフティングはどこまで進んだか  
座長：武藤正樹(社会福祉法人日本医療伝道会衣笠病院グループ相談役/よこすか地域包括ケア推進センターセンター長)  
新木一弘(国立病院機構東京医療センター院長)
- (1)「NTT東日本関東病院における医師の働き方改革について」  
亀山周二(NTT東日本関東病院院長)
- (2)「Win-win-winの働き方改革となるために」  
秋山智弥(公益社団法人日本看護協会副会長)
- (3)「医療機関におけるタスクシフティングのすすめ方」  
斐 英洙(ハイズ株式会社代表取締役社長)
- (4)「働き方改革における事務部門の役割」  
中山和則(筑波メディカルセンター病院事務部長)
- (5)「医師の働き方改革ー医療関係者に求められる変化ー」  
馬場武彦(社会医療法人ペガサス馬場記念病院理事長)